

わがまちの「ちよつといい話」

NO. 56

「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

四月十五日は、笠松春まつり。今年は寒さが残り、並ぶ露店にさくらの花が舞うまつり日和に恵まれ、各地でさまざまな催しが行われた。八幡町でも町内会が中心となり、

みこし六台を繰り出し、

他の町内のみこしや大名行列お奴と共に、八幡神社と産霊神社に奉納し、町内のまつり気分を盛りあげた。

◇ ◇ ◇

最近、子どもや若い人が少なくなり、みこしの担ぎ手がいなくて嘆く町内が増えてい

る。八幡町も事情は同じ。しかし、昔から続いてきた花みこしを何とか引き継いでいきたい。

みんな、「わっしょい。わっしょい」やれば、気持ちに通じ合い、気合いが入

「花みこし」を一緒に
笠松の心に 浸る!



みこしは担いだことがない。おもしろそう!

担いでみたい」と連絡が入った。

◇ ◇ ◇

当日、学生さんも町内の人と同じ法被(はっぴ)をまとい、八幡町の人となり、女性花みこしの先棒を担ぎ、練

る。みんな顔馴染みとなり、若いも若きも、ひとつになれる。まつりに担ぐ花みこしに桜色の和紙を張りつけるかたわら、町への思いを語り合った。

◇ ◇ ◇

「花みこしを町内の人だけで担ぐのもいいが、笠松に縁ある方たちにも担いでもらってほしい」という声があがってきた。「それはいい」と、さっそく、

これまで笠松町にさまざまな提案をいただいている岐阜女子大学に声をかけてみた。すると、女子学生四名が「お

り歩くこと三時間。「肩が腫れるほど痛かった」とは学生さんの本音。

しかし、「笠松の人はとても親切でサービス精神が旺盛。初めての私たちに担ぎ方を教えていただき、若い人へ教えようとする強い気持ちを感じました。自分達の伝統を伝えたい」という願いが私達にも伝わってきました」とさわやかであった。笠松のまつりに浸り、その心を感じてもらった一日となったようだ。



八幡神社に奉納する 八幡町「花みこし」